

2 学校経営について（学校経営ビジョン）

（1）校訓

豊かな心を持ち、たくましい人となるよう互いに磨き合ひましょう

（2）学校教育目標

子どもたちが自分自身の力で幸せになるために	
・自分の考えを持つ力	Think
・自分を表現する力	Output
・チャレンジする力(失敗を恐れない力)	Challenge
を育成する	

（3）めざす学校像、生徒像、教師像

（ア）めざす学校像

- ①安全・安心で生徒が毎日通いたくなる学校
- ②生徒の可能性を伸ばす、誰もがこころ落ち着いて過ごせる創造的な学校
- ③地域社会や保護者に開かれ、信頼される学校

（イ）めざす生徒像

- ①気配りや思いやりを大切にし、協力することのできる生徒
- ②目的を持ち、主体的に学習や活動ができる生徒
- ③体を鍛え、自己指導能力をもって行動できる生徒
- ④人のため、地域や社会のために積極的に活動できる生徒

（ウ）めざす教師像

- ①生徒への深い愛情を持ち、個々の実態に合った指導ができる教師
- ②学校運営への参画意識を高く持ち、主体的に考え、行動できる教師
- ③「教師のため」ではなく「生徒のため」の授業を日々研究し、実践できる教師
- ④全体の奉仕者として強い使命感を持って取り組み、地域や保護者の信頼やニーズに応える教師

（4）学校経営方針

<p>（ア）主体的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>（イ）自己指導能力を持った生徒を育成する。</p> <p>（ウ）教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。</p>
--

（5）方策

（ア）主体的に学ぶ生徒を育成する

- ①教科の本質に迫る「学習課題・まとめ」のある授業を日々研究し、実践する。
- ②教師の発話量をできるだけ減らし、対話を重視した課題解決型の授業を実践する。
- ③指導に対して適切な評価をして、生徒の成長に繋げていく。
- ④個に応じたきめ細かな指導で、基礎・基本の定着を図る。

(イ) 自己指導能力を持った生徒を育成する。

- ①生徒主導の学校行事などを通して、主体的に考え、活動できる力を育成する。
- ②確かな生徒理解により、生徒一人一人の良さと可能性を伸ばすように努める。
- ③粘り強さや人間性などの、非認知能力を育てる取り組みや仕掛けを探究し、実践する。
- ④生徒の自己有用感を高める取り組みなどを通して、未然防止の生徒指導を実践する。
- ⑤生徒自らに任せたり、判断させたりする経験を通して、自己指導能力の育成に努める。

(ウ) 教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。

- ①全職員が学校運営への参画意識を高く持ち、主体的に考え、新たな実践に取り組む。
- ②学校に関わるすべての職員との連携を強化し、組織的な運営に努める。
- ③校区小学校との連携・交流を強化し、連続的・段階的な指導を構築する。
- ④細かな連絡と、積極的な情報開示により、家庭・地域に信頼される学校を創る。

(6) 令和7年度のキャッチフレーズ

OUR SCHOOL

～生徒・職員・保護者・地域が誇りを持って大好きと言える学校を創ろう～

(7) 令和7年度の具体的な取り組み

(ア) 主体的に学ぶ生徒を育成する

- ①生徒が学びたいと思う学習課題を提示し、学び合いを中心とした授業を展開する。
- ②授業は、見通しを示しながら、生徒自身の言葉でまとめられるように展開する。
- ③授業で生徒に委ねる場面を増やし、主体的に学ぶ生徒を育成する。
- ④一人一台端末等の ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びを推進する。

(イ) 自己指導能力を持った生徒を育成する。

- ①取り組みが前年度踏襲でよいかを検証し、改善すべきことをスピード感を持って実施する。
- ②生徒が主体的に行動し、自己有用感が得られるような生徒会活動・部活動を実践する。
- ③道徳の時間の充実を図りながら、自分自身と周りの人たちを大切にできる生徒を育成する。

(ウ) 教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。

- ①TPOに応じた丁寧な言葉遣いで生徒と接し、確かな信頼関係を築く。
- ②新たな不登校を生み出さないために、温かい人間関係、魅力的な授業・活動を構築する。
- ③風通しの良い職員室、各教科部会の充実を通して、生徒理解・授業改善に生かす。
- ④各支援員、業務補助などとの連携を密にし、効果的な運用を行う。
- ⑤積極的に情報提供を行うことで、学校、家庭、地域との連携を深める。
- ⑥地域行事やボランティア活動への積極的な参加を通して、ふるさとに貢献できる生徒を育成する。

(8) 教職員の業務改善に向けた具体的な取り組み

- ①学校全体を俯瞰で見て、適材適所に適切な人員を配置し、効率よく校務をすすめる。
- ②日課、学校行事等の見直しを進め、教職員が本務に専念できる時間を確保する。
- ③「拘りすぎ」や「丁寧すぎ」がないかを様々な取り組みで検証し、必要あれば削減する。
- ④教職員の意識改革を促進する取り組みを継続的に行い、学校から早く帰りやすい環境を整える。